

第4回ビジネスジェットの推進に関する委員会

日時：平成24年2月16日（木）13：00～15：00

場所：合同庁舎2号館16階 観光庁国際会議室

主なご質問・ご意見：

〈効果的な情報発信について〉

○ビジネスジェット専用の雑誌や、カード会社が一定の金額(3,000万円)以上の顧客に配信している雑誌などの媒体を使うのも効果的ではないか。

○日本に駐在する海外メディアに積極的に、かつ継続的に発信することが効果的である。

○日本に来る大物有名人（韓流スターなど）に「ビジネスジェットの出入国導線は快適であった」とブログやツイッターなどで情報を発信してもらう方法もよい。

○ビジネスジェット利用を判断する者が、どのような影響を受けて決定しているか、マーケット調査をすることが必要ではないか。

○アジア、中国などビジネスジェットの成長性が期待できる部分にピンポイントに情報を発信するのも効果的ではないか。

○ピンポイントに情報を発信するためには、ビジネスジェットを多く利用している業種はどの業種なのかなどのマーケット調査が必要ではないか。

○既に顕在化している利用客と今後期待できる潜在需要を分けて検討することも必要ではないか。また、国内向け、海外向けなど分けて検討することも必要ではないか。

○日本では現在、定期便の合間を縫ってビジネスジェットが飛んでいる状況であり、今までのPR内容では、定期便重視だと思われる。今後は、ビジネスジェットを重視しているということを積極的に打ち出していく必要がある。

○利用者サイドに日本のビジネスジェットの状態を知ってもらうのが大事である。そのためにもターゲットを絞った情報発信が必要である。

〈技術規制のあり方について〉

○国際基準に合わせるのは最低条件であり、これを超えるインセンティブがないといけない。

○日本独自の課題もあり、個別に検討しなければならないが、FAR 135相当のものの導入を早期に実現してほしい。

○企業の経営体力をつける意味でも技術規制の検討に取り組んで頂きたい。

〈その他〉

○2月9日に開催されたビジネス航空フォーラムでは、神戸空港と名古屋空港がビジネスジェットを積極的に取り入れている印象があった。

○日本へのビジネスジェットの乗り入れ状況をみれば、英国に加えて、香港やアジアの状況についても確認する必要がある。

○手続き関係やセキュリティ関係など、一律の対応ではなく、ビジネスジェット利用者のニーズに合わせたフレキシブルな対応が必要ではないか。

○日本経済が活発になったときに、ビジネスジェットがそれを支えるツールとなれるよう、先行的に取り組むことが重要である。

○空港経営改革の検討が進められているが、ビジネスジェットをどれくらい組み入れたら経営が成り立つか議論して頂きたい。

○成田空港のビジネスジェットの専用施設は、今年度中にも施設整備が完了し、運用に入れるという見通しでありますので、大いに活用していただきたい。

○今後の進め方について、案を作成していくことも必要ではないか。